交通×地域サービス連携のデータ分析による地域交通持続可能性拡張事業｜新潟交通株式会社　2026/03/13

目的　：バス運賃収入の確保と運賃外新収益モデルの検証

- MaaSアプリ(りゅーとLink)のデータ(属性等)やバス乗降データ等の抽出や可視化、分析を効率的に実施するため、分析基板(BIツール)を導入し、分析結果を活用した路線網改良の検討や企画乗車券造成等によるサービス向上、路線網維持の原資となる運賃外新収益モデルの検証を実施する。

事業内容：BIツールの基盤構築・実装によるアプリ効果の最大化

【交通サービスの高度化】
- MaaSアプリに分析基盤(BIツール) 実装し、バス利用実績データ等の分析結果に基づいた企画乗車券販売により利用促進を図った。

【モビリティデータの取得・活用】
- BIツールを活用し、各種データをクロス分析し、路線網改良の検討やデータを利用する企業向け運賃外新収益モデルの検証に活用した。

【地域交通政策等との連携】
- 新潟市のバス利用促進施策活性化のため、過去のバス利用促進施策のデータ(参加者の属性、参加エリア等)を分析し、次回の施策への参加促進のための取組検討に活用した。

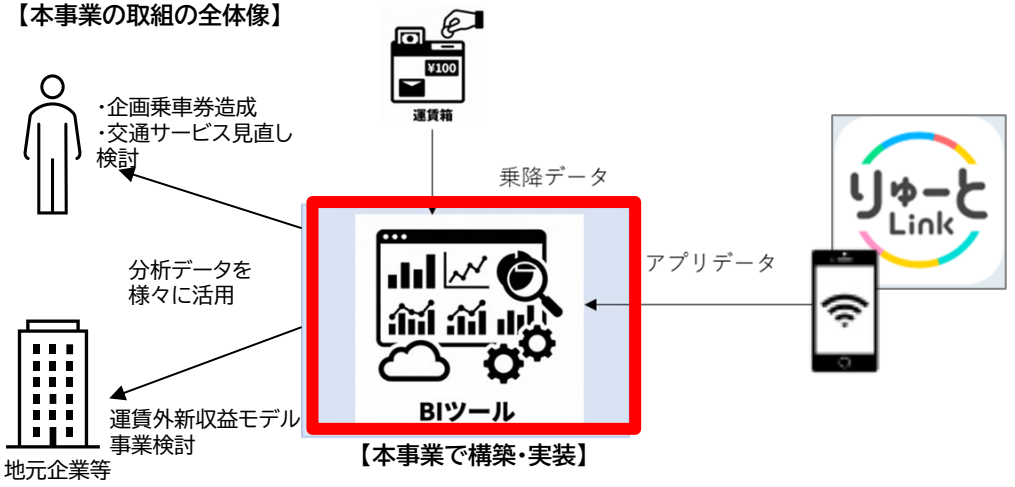
効果

- 課題:これまではデータ抽出と分析に時間がかかるため十分に手を付けられず、ダイヤ改正や路線再編検討等バス運営へのデータ活用が遅れていた。また、路線網維持のための原資獲得に向けたデータ活用による運賃外新収益モデル確立も、膨大なデータ分析が必要になることから検証が停滞していた。
- 効果:本事業により、取得したバス利用実績データ等の分析を短時間で実現(工数30%減)し、分析結果を活用したモバイル企画乗車券の造成を実現。運賃外新収益モデル確立に用いる分析も同様に工数削減され、検証の推進に繋がった。

【実施エリア】 新潟市を中心とするバスエリア

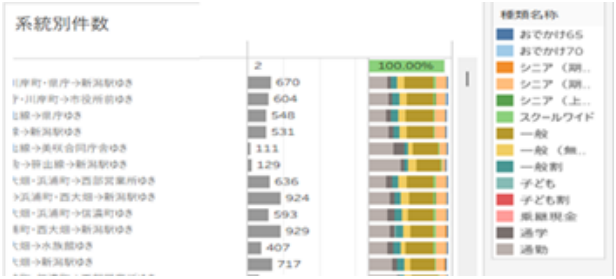


【本事業の取組の全体像】



【本事業で構築・実装】

【BIツールの分析結果画面】



系統別利用データとICカード種とのクロス分析の可視化

【モバイル企画乗車券の画面】



MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	市街地や観光地の消費拡大には、高速バスや路線バスの日常的な利用や観光客の周遊が重要であるが、MaaSアプリやICカード利用によるバス乗降データ等の分析不足により、効果的なバス利用促進策の立案が困難であった。	実装したBIツールにより、MaaSアプリ利用によるバス利用者のセグメンテーションが進んだことで、需要に合わせたモバイル企画乗車券の造成を実施し、バスによる移動需要を創出した。(販売実績248枚)
2	MaaSアプリやICカード活用によるバス乗降データ等の取得と分析に時間が掛かり、乗降データ等を活用した効率的なバス運行や新潟市と連携したバス利用促進策の検討に活用できていない。	実装したBIツールにより、バス乗降実績データ等の抽出と分析時間を約30%削減。短時間で可視化と分析ができるため、新潟市のバス利用促進施策の検討に活用できた。
3	バスの減便や路線廃止の一因である乗務員不足の解消には待遇改善等が必要だが、ダイヤ縮小で利便性が低下し、バス利用者が減少する中、運賃収入だけでは改善の原資が確保できない。	データを活用した運賃外収益モデルの確立に向け、BIツール導入による多角的なデータ分析ができる環境の構築や新たなデモグラフィックデータが取得できる連携先を1件追加できた。

KPI

【凡例】 赤字:目標達成　青字:目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	コンシューマー向けアプリ関連モニター数値	月間会員登録者数 月間利用者数平均	データベース確認	都度	45人/月 3,000人/月	245人/月 3,308人/月	MaaSアプリ利用に向けたキャンペーン継続と広報活動により目標を達成。今後、新規会員登録者の継続的な利用促進を図り、月間利用者数平均の増加に取組む。
2	県内高速バス＋新潟市内路線バスの企画乗車券の販売数	企画乗車券の販売枚数	データベースを確認	販売期間終了時	550枚	248枚	販売期間変更による販売枚数が減少
3	企画乗車券利用者の交通事業者アプリを介した市内商業施設等への誘引	企画乗車券の購入ユーザーの商業施設等への訪問数	データベースを確認	販売期間終了時	200人	10人	・乗車券と連携した商業施設への誘致キャンペーン(クーポン配布)の広報等による周知が不足していたため ・乗車券購入者(主に広域での移動者)と誘致キャンペーン(市中心部の商業施設での飲食割引等)にミスマッチがあったため
4	ストックした利用者データの需要	データマーケティング利用企業数	連携実績	都度	6社	4社(増加なし)	データマーケティングを利用したい企業が求めているデータのヒアリング等に時間を要し、本補助期間内での利用企業の獲得は未到達。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.